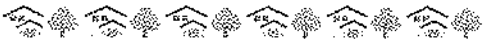




まち・コミ



1999年2月1日発行

発行

阪神淡路大震災まち支援グループ
まち・コミュニケーション

〒653-0014 神戸市長田区御蔵通5-5兵庫商会3F

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

e-mail m-comi@cx.airnet.ne.jp

URL http://www3.airnet.ne.jp/m-comi/

震災から4年… 祈り



6430 人もの命を奪った阪神・淡路大震災。その悲しみはまだまだ消えませんが、被災地の復興は少しずつではありますが、着実に進んでいます。一方、依然として約 5800 世帯が仮設住宅で生活するなど、今後の課題はたくさん残っています。区画整理や再開発が行われていますが、本来の『まち』を取り戻すのは、いつのことでしょう。被災地のこれからの、まだ目が離せません。

1月は、まち・コミにとって大きなイベントが2つ行われました。

15日は、まち・コミが支援している『御蔵通5丁目地区復興再建共同化住宅』の地鎮祭。17日は『阪神・淡路大震災犠牲者追悼慰霊法要』。

今回の『月刊まち・コミ』は、この2つの特集です。それぞれに参加したまち・コミスタッフが、考え、感じたことをまとめました。



「出発式」という名の地鎮祭

戸田 檀美

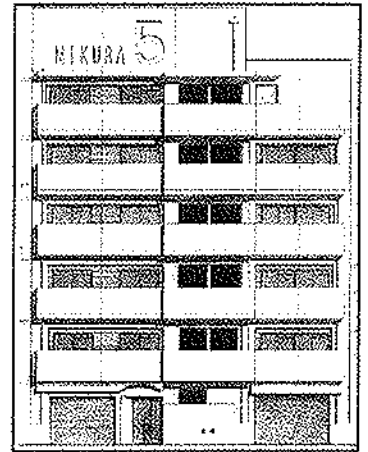
1月15日、成人の日。当然のごとく天気は雨。「雨降って、地固まるというから…」と、準備に追われるまち・コミスタッフの表情は明るい。今日は、仮称「御蔵通5丁目地区復興再建共同化住宅建設工事」の地鎮祭である。神式ではなく仏式で、工事・建造物の平安を祈る。(次頁へ)

も
く
じ

P 1 震災から4年… 祈り
「出発式」という名の地鎮祭
P 3 阪神・淡路大震災犠牲者追悼慰霊法要

P 6 焼け跡のくすぶり ～十六回～
神戸世相 ～ぎのう・きょう～
P 7 まち・コミ 活動報告 / おすすめ BOOK
P 8 まち・コミ今月も行く / 募金・協力のお礼
カンパ・募金のお祝い / 編集後記

(前頁より) 大勢の人が亡くなった御蔵の地には、これがふさわしい。「出発式」という名称からは、住民たちの再建にかける思いが感じられる。

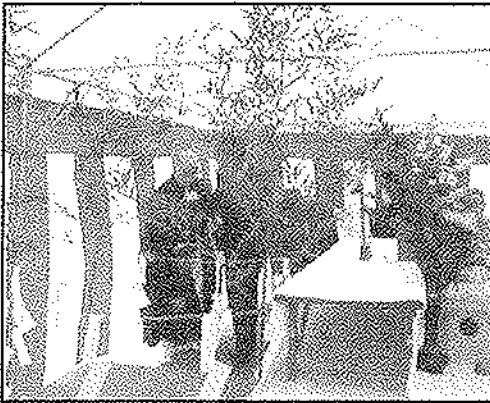


△共同化住宅の完成予想立面図
(「MIKURA 5」は仮称)

■長き道のり、ゆえに輝きを増す光■

やっとこの日がやってきた。近畿大学工学部の小島教授が共同化による「建替え案」を作成したのは、1996年3月。その後、このプランは大きく変貌を遂げ、結局、鉄筋コンクリート造り6階建て、495平方メートルの土地に建築面積307平方メートル、延べ床面積984平方メートル、10戸と2店舗、12世帯が入るマンションが誕生することになった。ここに来るまで、2年10か月の月日が流れている。

これまで、専門家を招いての勉強会や、住民たちが自ら建設した“オーダー”マンションの見学会などを行い、会合や会議で納得がいくまで何度も話し合った。持っている土地の大きさが違えば、現在の生活環境も違う人たちが、ひとつのマンションを建てるのである。時間がかからないはずがない。部屋数からコンセントの位置まで、それぞれが自分で決めた。設計図は何度も書き直された。「本当にマンションが建つのだろうか」という不安は募る一方だっただろう。しかし、やっとの思いで出来上がった一戸一戸異なる設計図には、未来にむけての夢と希望、そして、家族への愛情があふれている。



△導師に導かれて、建設組合理事長・柴本さん、施工主の住都公団・田中さん、設計をされた武田先生が土地のお清めをする。

■緊張と共に歩み出す大きな前進■

午後になって、雨が止んだ。やはり、おめでたい日に雨は似合わない。「出発式」開始時間に向けて、人がぞくぞくと集まってくる。報道関係者も大勢つめかけた。皆、緊張の面持ちである。仏式の地鎮祭に戸惑いつつも、出席者全員が御焼香をし、祭壇に手を合わせる。気持ちがひとつになった。

■笑顔に見る、明るい未来■

式は滞りなく終わり、そのあと『祝いの会』が現場事務所で行われた。立食形式でお酒を飲みながら、それぞれ思い出話に花を咲かせ、交流を深める。

会場の片すみに、ひときわ目を引くグループがあった。入居予定の女性陣である。楽しい話は尽きることがない。新居が出来上がったときの、見学ツアーの計画が立った。

旗を持った設計の武田先生を筆頭に、全員で全部の部屋を見て回るらしい。引っ越し前と引っ越し後、2回の予定だ。自分の「城」は自分でみんなに自慢することになっている。

新しいコミュニティーができる。女性陣をみていると、それを目の当たりにしたような気がした。あの日から5年を目前にした今年の12月、12世帯の再建が完了する。



△入居予定者が祭壇の前に集まり乾杯をする。

阪神・淡路大震災
犠牲者追悼慰霊法要
（ご報告）
（吉田信昭）

平成11年1月17日曜日。この日で「兵庫県南部地震」から丸4年が経った。「震災5年目を迎えた」と表現する人も少なくない。いや、被災地に住む人、また、我々ボランティア活動に携わる者を含めて震災に関わる人にとっては、この表現の方が自然と口から出てくる。それは「震災」が現在進行中のモノであるからと言えよう。

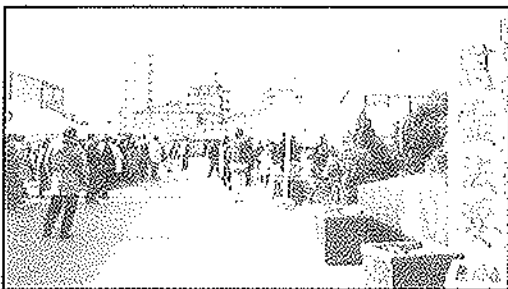
阪神・淡路地域の多くの方々の5回忌にあたるこの日、各地で追悼の行事が行われた。私たち事務所の所在地、御菅地区（御蔵通と菅原通）。ここでも「阪神・淡路大震災犠牲者慰霊法要」が行われた。会場は昨年と同じく菅原市場の駐車場。法要の始まる午前10時30分、空が高く太陽光線が眩しく照らす。



主催する『全国曹洞宗青年会』、『兵庫県第二総務所曹洞宗青年会（兵二曹青）』の僧侶をはじめ、全国から約30名の僧侶に来ていただき、犠牲者の霊を慰めて下さった。

ご家族のお位牌、遺影を手に会場を訪れる方も少なくない。おそらくこの会場に集まった全ての人が、それぞれの想いと思い出を持ち寄り、祭壇に奉っていた事であろう。私たちのように地震の後に神戸に来た県外ボランティアも、この土地のいにしえを築いた方々に敬意と哀悼の意を持って祭壇に向かう。

兵二曹青会長、平岩浩文師を導師として、僧侶達が参列者の心をお経にして唱える。お経の中で、この御菅地区で犠牲となった方々の俗名が読み上げられる。



今回初めてこの地を訪れるた尼僧（女性の僧侶）、5名の姿が見られた。東京から駆けつけて下さった尼僧達は、今年の慰霊法要の際に奉ったお位牌をこの数ヶ月の間毎日お経を唱え、慰めて下さっている。

また、毎年来て下さっている僧侶の方も少なくない。この時期だけでなく、年に4回5回と被災地に足を運び、法話の会や托鉢、ボランティア活動をされている天草の荒木正昭師をはじめ、SVA（曹洞宗国際ボランティア会・本部東京）神戸事務所で被災地支援をしてきた県内外の僧侶の方々。

参列者、僧侶、それぞれがそれぞれの想いを胸に、手を合わせ、祭壇に向かう。

式典の終わりは、福岡県より来られた狩野俊猷師による法話。心から溢れ出す被災地へのエールに参列者は静かに耳を傾けた。

式典の終了後、御菅地区のご婦人方によるうどんの炊き出しが行われた。1月の寒空の下で参列された方々にとって、冷えた体を温める何よりのご馳走と成ったであろう。

その後も断続的に焼香を希望する人が会場を訪れる。法話をしていただいた狩野師と隣兵庫商會社長田中氏、まち・コミ小野が祭壇の側に付いて参列者に挨拶を続け、線香をあげる人の足は、日暮れまで続いた。



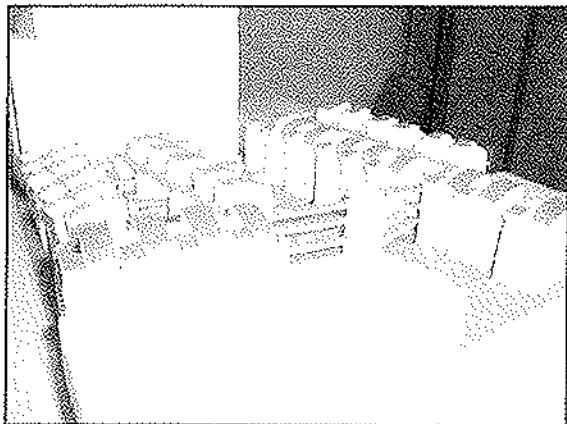
震災・まち・ひと

— 第12回 — 住まい再建へのレシピ ⑧

神戸発 住まい再建の現状／課題／展望②

共同再建事業に携わる中で感じたことと「これから」①

まち・コミュニケーション 小野 幸一郎



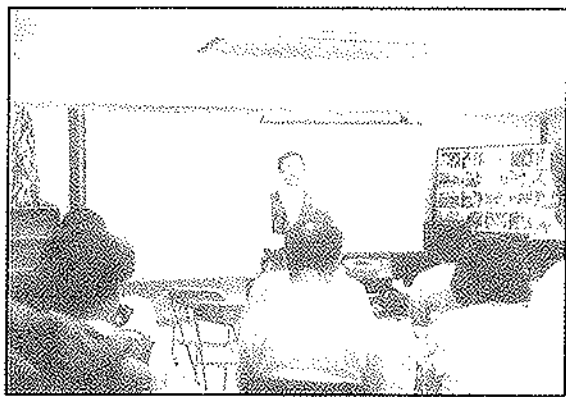
↑御蔵通6丁目北地区を想定して作られた巨大な共同化案。住戸200戸・店舗15区画・事務所2区画・地下駐車場144台・高層棟14階建て・低層棟4階建て。

約1年近くに渡って続きました「住まい再建へのレシピ」ですが、最後は担当である小野の雑感めいたことを織り交ぜながら、まとめ(になるかな?)にさせていただきます。(そういえば、以前のインタビュー形式の縮めも、僕の「ひとり上手」であったような・・・→98年4月号参照)

今月号のトップ記事にもございますように、約3年近くに渡って支援してきた「共同再建」がいよいよ着工する運びとなりました。「小島案」が発表されてから約3年余り・・・、ここに至るまで、それはそれは様々なことがありました。

96年1月、近畿大学・小島先生による「1ブロック全共同化案」から御蔵の共同化の話はスタートしました。地主・家主・店子が協力しあって住宅再建をするという壮大な案でした。

その後、対象地区の住民に協議会の役員さんが中心になって意向調査を行いました。が、「土地への執着」と「マンション生活の拒絶感」が根強く、ごく一部の方の賛意しかえられませんでした。



↑延藤先生の「幻燈会」:2台のスライドプロジェクターを駆使しながら、先生の優しい語り口でまるで物語のように、まちづくりや集合住宅の事例を紹介して下さる会

同じ年の暮れに、千葉大学・延藤先生の「幻燈会」を行い、集合住宅の考え方に膨らみをもって頂くと共に、もう一度こんどは御蔵5・6全部の「AAA」(地主であり持ち家でそこに居住している人)を対象にヒアリング調査を開始。早稲田大学・浦野先生の研究グループの方々のご協力をえながら、小島先生や「門下生」の方には何度も神戸に足を運んで頂きながら、約50世帯にヒアリングを行いました。

その後、再度延藤先生のご協力のもと、ワークショップを行い、数回の検討会を経て97年6月14日に「準備会」が発足。発足時は4世帯でした。

まずは、「仲間増やし」と「建設地探し」が大きな課題。当初は6丁目北を候補地にしていたので、やはりそこに土地を持っている方を中心に「説明」に廻りました。そうしたらそこで、大地主と借地人さんの権利問題が浮上し、結局は「まちづくり支援機構」の支援を受けて何とか解決。しかし結局、6丁目北での実現が困難となり、共同化参加を検討していた住民からの申し出などもあり、兵庫商会の理解を得られ、結果現在の5丁目北が新たな「候補地」となりました。

候補地変更に伴い、その近隣に住まわれている方々にも呼びかけをはじめ、最終的には借地をされている方2件が権利関係を清算した上で参加をされることになります。

一方、共同化事業に必要なデベロッパー(権利者の代わりに建設費を出し、部屋を分譲してくれるところ)として、住宅・都市整備公団と事前打ち合わせを行っていましたが、公団からは「計画コンサル」の必要を指摘され、また、神戸市の「住宅市街地総合整備事業」担当者からも同様の指摘を受けます。

長田区真野地区のコンサルを20年されている宮西悠司先生にご相談をし、佃武田設計の武田則明先生をご紹介いただき、武田先生は快諾して下さいました。

そして、97年9月に権利者による「第1次覚え書き」が交わされます。

「準備会」は2週間に一度の割合で開かれ、事業成立に向けて、様々な議題に取り組みました。

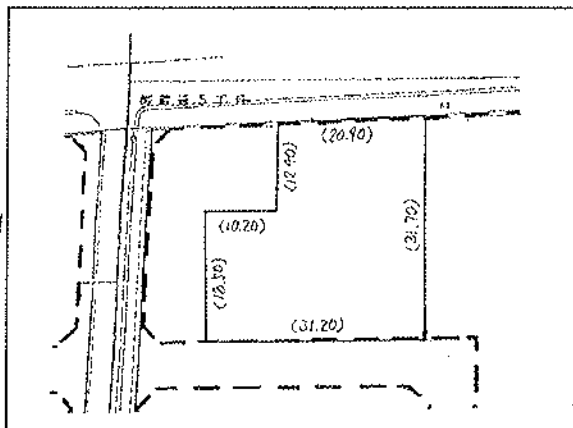
建設予定地への集約換地は、土地の形状について神戸市区画整理課と折衝を行いました。隣接する受け皿住宅(市営住宅)との境界線を巡って住宅局ともかけあいました。

平行して、建物についての基本的な方向性—「総合設計制度」を使うか(高層になるが土地を有効利用)・容積200%を目一杯利用するか(低層にはなる)—について各先生から案を出され、最終的には「低層案」で進めることになりました。

「住市総」の特例(共有部分に4/5の補助)が98年3月に切れる・公団の割賦制度も今年度で終わる等、様々な不安材料がでてきたり、参加予定者の脱退が現れたりしながらも建設組合設立と集約換地の準備は進み、翌98年1月、「集約換地願い書」「第2次覚え書き」調印がなされ、建設組合が設立されました。

次号は後半です!!

↑ 弁護士・税理士・不動産鑑定士・司法書士...まちづくりや共同化住宅に関係のある専門家による画期的な支援機構。雛形となって全国に波及するか?



↑ どこに、どの様な土地を確保するかは、そのままどんな建物を建てられるかにつながる。権利者の全面積・近隣の事情等で土地のカタチは左右される。

<<簡単な注釈>>
 住宅市街地総合整備事業: この事業の指定を受けた地区で共同化住宅等を建設する場合廊下や階段などの「共有部分」に国から補助がでる。通常は1/3。
 公団の割賦金: 公団の融資制度。年齢制限がない。現在はない。

焼け跡のくすぶり(十六回)

【震災四年目の被災地で思う】

震災から四年が経ち、先日五回忌の法要を菅原市場駐車場で行った。焼香のあとが絶えず祭壇は午後五時過ぎまで残した。

全国各地から馳せ参じて下さった顔なじみの僧侶の方々。そして今回初めて、尼僧団の方々と異口同音にまちの中が未だこんな空き地が多いとは驚きだとおっしゃる。

このまちは、不況と震災復元の遅れとのダブルパンチで青息吐息である。区画整理事業地区内と云うこともあったが、震災直後はこれほど条件が悪くなると思わなかった。

道路公園の街区は一昨々年に決定して、今仮換地の真っ最中で、約五十パーセント決定済みなのだが、なかなか個人住宅は建てられない。だが、まちづくり協議会では、どんな公園をつくるのかに話題はほとんど走っている。参加人数がごく限られていて、まだ周りも殆ど家がないうのに、これで良いのかとさえ思いながら、街区決定と同様止められないものかしら。

偶然にも、生死の境を紙一重で免れ、莫大なものを失って非日常のどん底に落とされてから四年。そしてこの四年間に費やしたものも、またとてつもなく大きい。確かにボランティアを始めいろんな人達から受けた物心両面に亘る支援は数知れないが、それだけでは家は建てられない。この四年が却って人々を疲労困憊させている。

道路や港湾などインフラ整備に十兆円近くの投資はあったのだろう。それらは早く復元した。だが、何故か市民は潤っていない。

そして神戸のまちは「早く、早く」と急ぎ立てられて「あれも、これも」と貪欲に手を伸ばし、あっちこっちに「ニョッキニョッキ」とやけに高い建物が無秩序に建てられ、なんと落ち着きのない街になってしまったのだろう。旧居留地や御堂筋、或いはパリの旧市街がいい雰囲気を出しているのは建物が割合揃っているのも大きな要因だ。

一方で昨年七月九月期の県内失業率は厳しいと云われる北海道の五・二パーセントを上回って五・六パーセントで企業倒産も高水準だ。

この危機的状况で「神戸」が今何をすべきで、何をやめるべきか。支援して下さった全国の皆さんの、否世界の人々の注目を浴びている

『看却下』

兵庫商會 田中保三

～神戸世相～ きのう・きょう

●震災で子亡くした母3年半たっても悲嘆深く重く、英知大教授が33人をアンケート調査(朝日新聞,99.1.17)「現在の心境」「悲嘆の変化」「周囲にして欲しくなかったこと」など自由に記載してもらったところ、何気ない一言に傷つくなど、まだまだ精神的に立ち直れずにいるケースも多く、夫の自殺や離婚・別居といったケースは9人に上った。一方少数ではあるが、悲嘆から徐々に立ち直りつつあるケースもあるという。調査に当たった高木教授は「日本は災害大国なのにこうした被災者の生の声を聞くことがなすすぎた。当事者の悲しみの深さや周囲への希望を知ること、周囲が何ができ、何をしない方がいいのか考えるきっかけにしたい」

●神戸大、復興住宅の暮らしの課題を探るアンケート調査、人付き合い大幅に減る、高齢世代ケア課題、なお5,800世帯が仮設に、仮設の孤独死227人(神戸新聞,99.1.16)98年11月に実施、県内23団地2705世帯に調査用紙配布、回収1,455世帯(54%)、高齢者のみ37世帯、無職7割。震災前は50%が「近所付き合いがあり楽しい」と感じていたが、現在は13%に減少、仮設住宅当時(30%)と比べても低下し、そのケアとコミュニティづくりが課題になっていることを浮き彫りにした。「楽しくつきあいたい」という積極的な人は48%。震災前にすんでいた土地に思いを残す人も多く、元の地域に「よく行く、時々行く」が6割近い。通院している人のうち約半数は震災前の病院に通い続け、患者同士の会話を求めている様子が見える。

●消えた長屋・木造アパート、高齢・低所得層住みづらく、震災4年、7大学教授・2研究室ら「町の復興カルテ」研究(朝日新聞,99.1.17)被災地の住宅地、商業地計8カ所と、応急仮設住宅5カ所で続けられている定点観測調査。灘区の南東地区の復興度をみると、倒壊し解体された建物の再建率は97年7月で63.4%、98年1月で66.1%と足踏み状態。東灘区東部地域では、解体された敷地のうち、更地が97年1月で36.6%、98年1月32%と動かなくなった。更地は手っ取り早く駐車場に代わるか、雑草が生い茂った状態で放置されている。また灘区では長屋・木造共同住宅の全・半壊率は8割～9割に上り、長屋は125棟・514戸解体されたが、再建は7棟・14戸。マンションなど非木造住宅は79棟818戸解体され、160棟1720戸が新たに建てられた。神戸大学・平山助教授は「低家賃の民営借家が消滅したことにより、低所得・高齢の被災者は元いた場所に戻れなくなった。住民の入れ替わりが起こっている。プレハブ住宅も増え、町が洋風化、非緑化、自閉化、乾燥化し、一言で言えばわびさびがなくなった」

まち・コミ活動報告

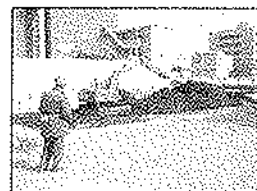
共同再建支援 全権利者契約終了→着工へ！ テーマ・課題は次へ



↑ 公団との契約

今月号の記事にもありますように「出発式」も無事済み、1月20日までに全ての権利者が住都公団と「土地売買」「住宅譲り渡し」の契約を行いました。

今後は、融資関係・税金関係の整理・確認、井戸利用の最終検討、そして管理組合の設立が課題となっていきます。

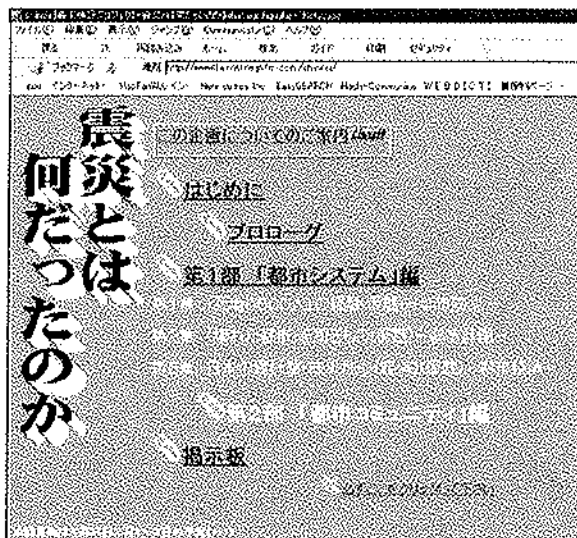


↑ ついに着工

その他 震災検証企画「震災とは何だったのか」、ホームページ開設

本誌でも度々お知らせした、「震災とは何だったのか」が、1月17日より、始動。まずはホームページとメーリングリスト(注)の開設です。今後徐々に内容を更新していきます。ご来訪下さった方は、「掲示板」もごさいますので、ぜひ一言お書き込み下さい。アドレスは <http://www3.airnet.ne.jp/m-comi/shinsai/> です。また当企画に関心をお持ちで、何らかの形でご協力頂ける方はメーリングリストへのご参加を。(インターネットをご利用できる環境でない方、申し訳ありません！本誌との連動を現在検討中です)

注 メーリングリスト:いわば閲覧板の様なもの(本当に「閲覧」はしないが)。ひとつのアドレスに投稿すると登録されている全員にメールが配信される。



↑ 震災検証ホームページ スタートページ

まち・コミ おすすめ BOOK

『震災が残したもの4』

編集発行は、東京や横浜を中心に約40名の会員で運営している「A-yan Tokyo(えーやんとうきょう)」。阪神・淡路大震災の直後に駆けつけたボランティアが、自分の生活に戻っても神戸と関わり続けるため、1995年4月に結成。毎年1冊発行される『震災が残したもの』は、被災者やボランティアへのインタビューをまとめたルポルタージュ集。今年で4冊目。



●書評●

世の中にはいろんな人がいる。いろんな考えの人がいる。言葉にすると簡単ですが、一番難しいことのように。

私が知っている人が、インタビューされていました。明石市民の私をうならせる明石焼きを焼く、辻野さん。まち・コミスタッフの浅野さん。どちらとも知り合ってから、4か月あまり。震災が彼らに残したものは、こんなものだったのか…。

過去も大切です。でも、現在のほうがもっと大切だと思います。『震災が残したもの4』を読むと、被災地の現在に、すこし触れることができます。

いろんな立場の人に、いろんな角度から読んでもらいたい1冊。

(檀美)

まち・コミも行く!

検証企画「震災とは何だったのか」スタート!!
ご意見、ご希望、ご感想 etc ...は、まち・コミまで。
メーリングリスト参加者も募集中です。お気軽に。(檀美)

1月

- 4日 仕事初め
- 8日 ラジオ関西震災特別番組収録
- 9日 共同住宅組合会議
わが街の会主催法話&新年会
- 12日 住都公団にて共同住宅契約説明会
- 13日 都主催「防災ソフ99」にパ行参加(小野)

- 14日 共同再建 土地売り渡し・
住宅等譲り受け申込み(20日まで4回)
- 15日 共同化住宅「出発式」
- 17日 御菅地区合同慰霊法要
検証企画「震災とは何だったのか」
ホームページ・メーリングリスト スタート
- 18日 遠藤勝裕氏講演会
「兵庫県経済の実情と今後の課題」参加
- 22日 御蔵通 5・6丁目町づくり協議会役員会
- 23日 元気アップ復興祭・交流会参加

募金・協力 (12/21~1/22)

ありがとうございました! (敬称は略させていただきます。)

●募金●

- 文貞実(岐阜県)
- 人形芝居ぶか(愛媛県)
- 国里吉文(佐用郡)
- 鈴木香奈子(東京都)
- 満留薫(尼崎市)
- 中田作成(神戸市)
- 滝川裕泰(愛知県)
- 大久保徳子(東京都)
- 和田幹司(神戸市)
- 村岡聖治(山口県)
- 名淵良隆(東京都)
- 坪谷令子(明石市)
- 横田尚俊(山口県)
- (株)山田工務店(神戸市)
- 馬場裕子(東京都)
- 寿松木宏毅(秋田県)
- 船越洋平太(大阪府)

- 豊根三恵子(神戸市)
- 岩崎美織(神奈川県)
- 岩崎信彦(京都府)
- 矢澤澄子(東京都)
- 澤田修一郎(京都府)
- 笹岡賢司(静岡県)
- (株)森長組(神戸市)
- 早坂文明(宮城県)
- 白川密峰(徳島県)
- 荒木正昭(熊本県)
- 梅田和江(埼玉県)
- 中村通宏(神戸市)

●協力●

- (株)兵庫商会(神戸市)
- 曹洞宗国際ボランティア会(東京都)

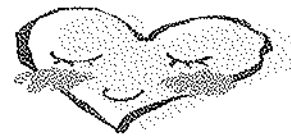
通信費カンパ・募金のお願い & 定期購読のおすすめ

現在、まち・コミュニケーションでは、活動に必要な資金への募金のお願いをしております。台所事情は楽ではありませんが、活動に当たっては、通信費はもちろん、事務所運営維持費や消耗品費など、支出の避けられないものが多々あります。

今後の被災地のまち復興のための活動へのご支援を、よろしくお願い致します。

【郵便振替口座番号】00950-3-42788

【口座名称】「まち・コミュニケーション事務局」



また、この通信紙を継続的に読んでみたい方は表の事務所連絡先までご連絡下さい。

編集後記

★(小野)

★「春節と 名は春なれど 冷厳の 風が身体にしみ 融雪を待つ」皆様お身体をお大切に(吉田)

★メールアドレスつくりました。原稿送るのが楽しいです。(戸田)